

地域おこし協力隊への意向調査（アンケート調査）実施概要

1 概要

地域おこし協力隊の任期終了後の県内での定住促進を図るため、地域おこし協力隊全員へアンケート調査を行うことにより着任前から任期終了後までの分析を行い、今後の県の施策に資するもの。

2 事業内容

(1) 調査期間 令和3年7月30日～8月20日

(2) 対象者 135名

- ・富山県内の市町村における任期中の地域おこし協力隊員 40名
- ・富山県内の市町村における地域おこし協力隊の任期終了者 95名

(3) 調査方法

郵送等調査（所属市町村を通じ配布、提出は紙またはWEB）、ヒアリング調査

(4) 調査項目

- ①回答者属性、②地域おこし協力隊への応募動機、③地域や行政との思いの方向性、④地域住民・行政の受入体制、⑤活動状況、⑥ネットワークづくり、⑦起業、⑧定住・定着支援、⑨任期終了後、⑩ヒアリング

(5) 回収結果

- ・有効回答数 68件
 - ・回収率 69.4%
- (住所不明により配布不能 37件)

3 調査結果（概要）

別紙のとおり

地域おこし協力隊員への意向調査（アンケート調査）結果について（概要）

地域おこし協力隊員（全体）の主な回答結果

- ・応募動機は「地方で暮らしたかったから（52%）」、「知識や経験を活かしたかったから（44%）」、「地域活性化の役に立ちたかったから（43%）」の順が多い。
- ・任地を選んだ理由は「活動内容が魅力的だったから（60%）」が最も多い。
- ・任期中の仕事には「(だいたい) 満足している (いた)¹（72%）」。
- ・任期後の起業は「考えている (いた)（63%）」。
- ・起業の課題は「開業資金調達（63%）」、「運転資金調達（63%）」、「人的ネットワークの構築（42%）」の順が多い。
- ・研修会への参加は「(たまに) 参加している (いた)（80%）」。
 - 県主催の研修は概ね良かった。地域おこし協力隊の研修だけでなくスキルアップにつながるセミナー、起業の方法等の研修を開催してほしい。
- ・任期終了後の動向は「任地の市町村に定住する予定(58%)」、「わからない（18%)」、「県外に転居する予定（3%)」。
- ・定住のためのサポート・支援策については「退任後の起業・事業承継への支援（56%)」、「定住に向けての環境整備への支援（53%)」、「地域との情報交換や連携強化、ネットワークづくり（52%)」、「起業、就職活動のための知識、各種研修（52%)」などが挙げられている。

任期を終了した地域おこし協力隊員の主な回答結果

○県内定住の隊員

- ・隊員が来ることは地域住民に「(だいたい) 周知されていた（48%)」。
- 地域の有力者に紹介してもらった。その方が地域住民へ周知しておられ助かった。知らない住民からテレビ出てたねと声をかけられ、それがきっかけとなったこともある。
- ・行政には「(だいたい) 対応してもらえた（59%)」。
- ・任期中の仕事には「(だいたい) 満足していた（86%)」。
- ・行政と地域の期待することの方向性は「(ほぼ) 一致していた（52%)」。
- ・相談先は「市町村担当者、地域住民、地域おこし協力隊員、商工会、県内友人、地域おこし協力隊員 OB・OG、県外友人」等が挙げられている。

○県外移住の隊員

- ・隊員が来ることは地域住民に「(あまり) 周知されていなかった（83%)」。
- ・行政には「(あまり) 対応してもらえなかった（67%)」。
 - 協力隊のミーティングや地域活動を実際に見てほしい。
- ・仕事内容は「(あまり) 満足していなかった（50%)」。
 - 活動内容を特定してほしかった。活動計画を綿密なものにしてほしい。
- ・行政と地域の期待することの方向性は「(あまり) 一致していなかった（83%)」。
 - 行政から示された活動内容と地域の要望がミスマッチだった。
- ・相談先は「市町村担当者、地域住民、地域おこし協力隊員、県内友人、県外友人」等が挙げられている。
 - 自治体担当者と思慮疎通が難しい場合がある。相談できる窓口があるとよい。地域おこし協力隊員が自由に集まることが可能な場所等があるとよい。

¹ 下記のとおり（ ）書きを使用した表現とした。以下、類似の項目の場合、同様とする。
凡例：「満足している」又は「(だいたい) 満足している」 → 「(だいたい) 満足している」